

第3回 網走川ほか 減災対策協議会 議事要旨

日時：平成 29 年 6 月 28 日（水）13:00～14:30

会場：網走開発建設部 2F 第 1A 会議室

構成員：網走市長（代理：副市長）、大空町長、美幌町長、津別町長、オホーツク総合振興局長（代理：副局長）、網走地方気象台長、陸上自衛隊第 6 普通科連隊長（代理：副連隊長）、北海道警察北見方面本部警備課長（欠席）、網走地区消防組合消防長、美幌・津別広域事務組合消防長（代理：警防主幹）、網走開発建設部長

《議事内容》

幹事会の報告

規約の改正

これまでの取組状況について

網走川減災に係る取組方針の改定について

今年度の取組について

今後のスケジュールについて

《首長等からの主な意見》

（網走市）

- ・ 昨年の台風を踏まえ、また、国が公表した浸水想定区域が大幅に拡大し、現在、住民に戸別配布している防災ガイドブックの見直しを進めている。また道管理の藻琴川においても、浸水想定区域が相当広がると予想される。今後、藻琴川に浸水想定区域図もあわせて作成していく。
- ・ 平成 29 年度の取組としては、昨年の台風の教訓を踏まえ、内水排除するための排水施設用の非常電源を 3 箇所設置予定。
- ・ 昨年の台風はもはや異常気象では済まされないと考えているので、今後はこれらの異常気象等に対応していかなければならない。

（大空町）

- ・ 網走川のほか道河川も含む地域全体としての減災に関する取組は地域として非常にありがたい。
- ・ 平成 29 年度の取組として、排水対策に必要な資機材の導入や災害の拠点施設となる役場や総合支所等の機能整備を進めていく。また、河川特性や地域環境によって取組や対応などが異なると考えている。（網走川下流域の女満別地区、藻琴川上流域の東藻琴地区など。）
- ・ 行政と住民との対応になるが、過去に北海道の管理河川が破堤し、さらに藻琴川

のように堤防が無い河川等から溢水し、農地や周辺地域に危険を及ぼす場合、町の機動力だけでは厳しい。現在、地域の建設業協会と防災協定等を締結し対応しているが、今後どのように取り組んでいくか課題である。管理する主体が異なる河川（国・北海道・町）があるが、地域の河川が破堤した場合に地元の行政側としてどのような初動を取っていくか考えていかなければならない。そういった課題等を検討し、地域防災計画等の改定に反映する必要がある。今後さらに、国、道、地元の関係性を密にし、被害を大きくさせない技術的対応が必要である。

- ・この地域の河川は一旦、湖に水量が滞留し、何日もかけて徐々に水位が上がってくる。そういった行動計画の対応と破堤して一遍に浸水するといった行動計画の対応の仕方が少し違うと感じている。また、網走湖の場合は一旦水位が上がるとオホーツク海に流れ出て平常の水位に戻るまで約2週間位かかる。その間、災害対策本部を継続しているが、雨が降り続き水位が上昇している時と、水位が下がらない時の警戒体制のありかたも課題である。

（美幌町）

- ・道河川の中小河川を含めて減災に関する取組を行うことで地域の安心・安全が増す

と感じている。

- ・美幌町では、平成29年3月にハザードマップを作成し、全戸配布を終えたばかりだが、中小河川を含むハザードマップを作成しなければならない。
- ・美幌町は網走川のほか、支川の美幌川、さらに魚無川が流れている。全体的に雨が降ると、どんどん水位が上昇し、堤内側の内水が溜まってくる。そうしたなかで、ハード対策をしっかりと取り組んで欲しい。網走川では土砂の流入が多く、河床が高くなっているのではないかと考えられる。そうした現象も一因として、水位が上昇し樋門操作も早く行う事となる。そうしたことから河床の土砂を少しでもいいから取り除くことで、地域の安心安全が守れるのではないかと思う。
- ・北見河川事務所の協力を得て、早めに釜場を設置したい。

（津別町）

- ・大空町や美幌町のように自主防災資機材等補助金交付のような制度を作っていききたい。

（網走地区消防組合）

- ・構成市町村である、網走市及び大空町の互いの地域防災計画に基づいて避難経路及び適切な避難場所確保し、避難勧告等が出された場合は市民の生命を優先して、速やかに避難誘導をする。また水防資機材の整備を引続き実施していきたい。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・河川氾濫の防止及び災害を防げるよう力を合わせていきたい。
- ・災害が起きた時のために待機しているが、いよいよ危なくなった時は、情報を早めにもらい、準備等の時間を与えて頂くと非常にありがたい。何かあった場合は一刻も早く現場に駆けつけたい。

(網走地方気象台)

- ・ソフト対策で「情報のわかりやすい伝達」として、新たなステージに対応した防災気象情報の運用開始として、警報級の現象の恐れがある場合の積極的な気象情報提供について5月から開始した。また、大雨警報の発表判断に新たに表面雨量指数を導入し情報の改善を図ると共に、洪水・浸水の危険度色分けも7月4日から運用を開始する予定である。
- ・北海道内においても日降水量70mm以上、時間降水量30mm以上の発生回数などが統計上も現象として増加してきており、気象台としてもレーダー、気象衛星、高層観測、地上観測などの観測データをもとに、的確な情報提供に努めていきたい。
- ・防災に関する啓発のため、警察と連携して、気象情報に関する講演会を実施してきているところであり、今後も継続実施していく。

(オホーツク総合振興局)

- ・本協議会において、北海道管理河川も含めて議論していただくことになり、大変感謝している。
- ・昨年度の出水による災害復旧工事は順調に進んでおり、1箇所を除き、年度内に復旧完了予定である。
- ・河道内の樹木伐採や土砂掘削等については、昨年の災害を受けて道議会に諮られ、予算も計上されたことから、今後は計画的な維持管理を行っていく。

【その他】

(大空町)

- ・美幌町、大空町で管理している、古梅ダムや網走湖の左右岸に排水機場があり、洪水時にはこうした施設を活用して欲しい。また、網走湖や網走川の水位が上がれば樋門が閉ることから、網走川に流れていかないので釜場で排水を実施しているのが実態である。網走湖に隣接する農業の排水機場で、内水氾濫を防ぐためどんどん排水してほしいが、網走湖の水位が上昇し、破堤のおそれがあるから排水出来ないといった事態になる。こうした課題について河川と農業との連携していくことも重要である。

(美幌町)

- ・災害が発生すると自治体の首長の判断で避難勧告、避難指示を出す。近年の情勢からして、空振りでもいいから発出していく動きのようだが、各自治体によって様々な課題があり、悩ましい問題である。

そのため全道レベルでのトップ(市町村長)に対する研修会などがあれば良いと思っている。